

2025年度大学院博士前期課程学内選考試験問題

研究科名	科目名
教育学研究科 教育学専攻 臨床心理学専修	臨床・発達・教育心理学

以下の設問に答えなさい。

〔設問1〕

- ① 臨床心理学における事例研究の意義について説明しなさい。
- ② 類型論と特性論について、それぞれ代表的な理論と人名を取り上げて説明しなさい。

〔設問2〕

- ① 幼児期の第一反抗期（第一次反抗期）、思春期の第二反抗期（第二次反抗期）をそれぞれ説明したうえで、発達上における意義を述べなさい。
- ② 児童虐待の種類をあげて説明したうえで、子どもの心身に及ぼす影響について説明しなさい。

〔設問3〕

- ① 学習曲線について説明しなさい。
- ② 教育心理学の知見をふまえた学習支援について説明しなさい。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

問題の性質上、解答や解答例ではなく、出題の意図にて説明する。

出題意図：

Purpose of Question：

[設問1]は、臨床心理学を学ぶ上で最低限必要とされる基本的知識と理解度を問う内容であり、学部卒レベルの心理学における基礎学力を試すために出題した。[設問1]の1に関しては、4つの基本的な意義を踏まえて説明できているかを基準に採点を行った。[設問1]の2に関しては、類型論と特性論について説明できているかどうかを基準とし、適切な人名も挙げていれば、加点することとした。

[設問2]は、発達心理学を学ぶ上で基本的な知識と理解を問う内容であり、学部卒レベルの基礎学力を試すために出題した。[設問2]の1に関しては、第一反抗期および第二反抗期の定義を述べた上で、両者を比較して発達の意義を説明できているかを基準に採点を行った。[設問2]の2に関しては、虐待の4つの種類を示した上で、それぞれが発達上の心身への影響を例をあげるなどして具体的に説明できているかを基準に採点を行った。

[設問3]は、教育心理学を学ぶ上で基本的な知識とその理解を問う内容であり、基礎的な学力を試すために出題した。[設問3]の1に関しては、学習曲線の定義や意義、具体的な内容についての説明ができるかを基準とし、代表的な形状などや関連する用語の説明などがあれば加点した。[設問3]の2については、学習者の内面的なプロセスと環境との相互作用についての理解を踏まえた説明ができているかを基準に採点した。